



2020年1月18日
第57回日本糖尿病学会関東甲信越地方会
パシフィコ横浜 会議センター 第6会場

「女性糖尿病医師をpromoteする委員会」 アンケート結果について

横浜市立大学 分子内分泌・糖尿病内科学

○富樫 優

東京女子医科大学 糖尿病センター内科

三浦 順之助



日本糖尿病学会 COI 開示

発表者名：富樫 優、三浦 順之助

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。

背景・目的

- 女性特有のライフステージにおける様々なイベントがキャリア形成に支障をきたすことが多く、医師として研鑽を積むべき時期の就業率低下につながっている。
- 専門性を維持する女性医師が増加することで、医療全体での医師の過重負担を軽減することができる。また医療・医学の発展も期待できる。
- このような社会背景を鑑み、日本糖尿病学会では「女性医師をpromoteする委員会」を設立し活動を行っている。
- 同委員会では今後の活動改善の参考とするため、糖尿病医療従事者における現状および意識調査を行った。

方法

- 2018年度糖尿病学会の各地方会の参加者に調査用紙を配布し、任意で回答を募った。

- 質問事項

[選択形式]

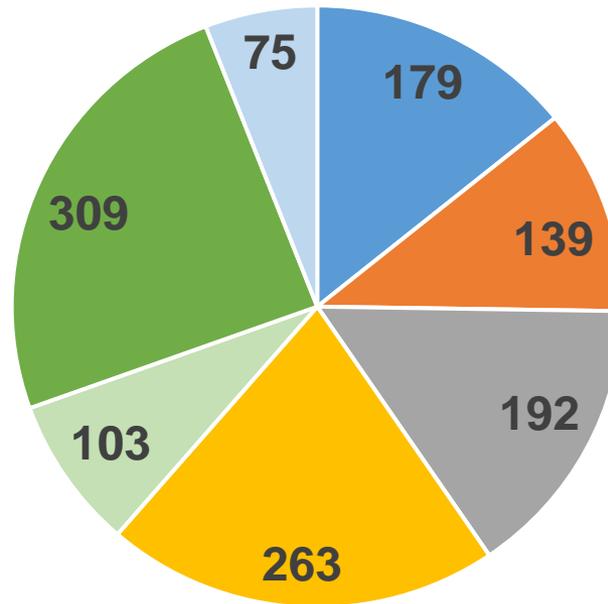
- 1.性別、2.年齢、
- 3.職種、
- 4.勤務形態、5.非常勤の場合その理由、
- 6.配偶者の有無、7.子の有無および年代
8. A (子育て中または子育て経験のある女性医師対象) 勤務形態、資格取得に関して望むこと
B 幼い子育て中の女性医師に対して勤務形態、資格取得に関して望むこと
- 9.子育て中の女性医師の雇用に関する考え

[自由記載形式]

- 10.子育て中の女性医師に関する課題を解決するために、委員会、学会に期待されること
- 11.「女性糖尿病医をpromoteする委員会」主催ワークショップにて、希望される内容

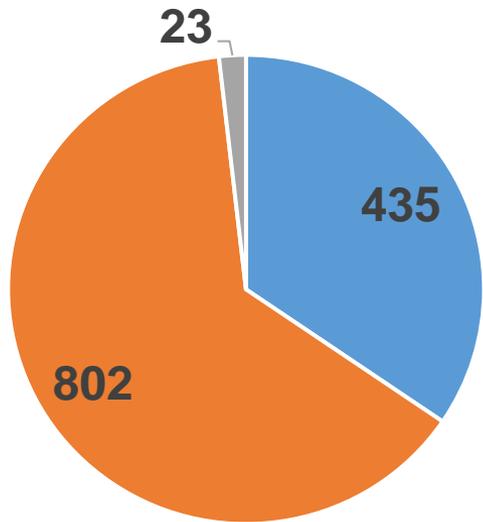
結果

調査票回答総数：1260名



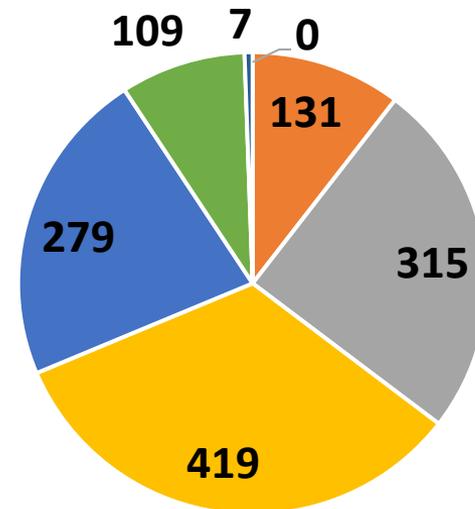
■ 北海道 ■ 東北 ■ 関東甲信 ■ 中部 ■ 近畿 ■ 中国 ■ 九州

1.性別



■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答

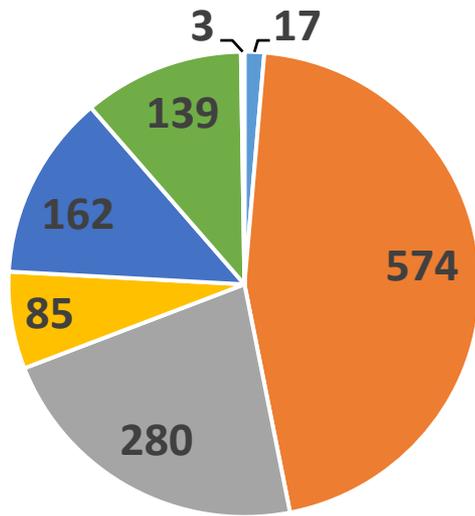
2.年齢



■ 20歳未満 ■ 20代 ■ 30代
■ 40代 ■ 50代 ■ 60代以上
■ 無回答

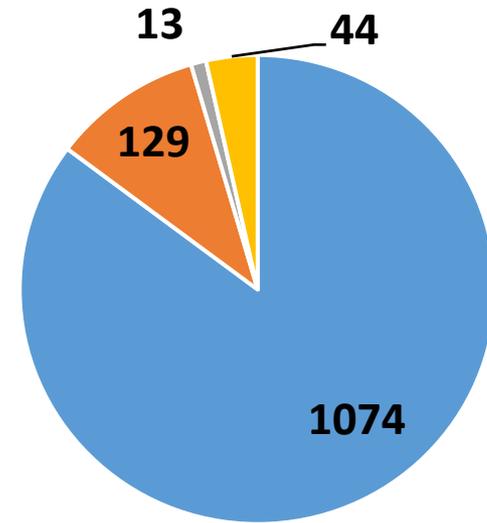
男女比は3.5:6.4、30代～50代が8割を占めた

3. 職種



- 学生
- 医師
- 看護師
- 薬剤師
- 管理栄養士
- その他
- 無回答

4. 勤務形態



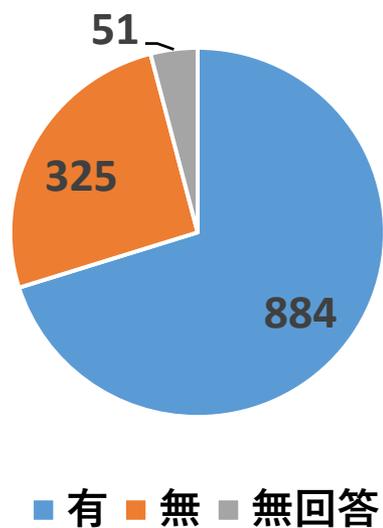
- 常勤
- 非常勤
- 休職中
- 無回答

5. 非常勤勤務の理由

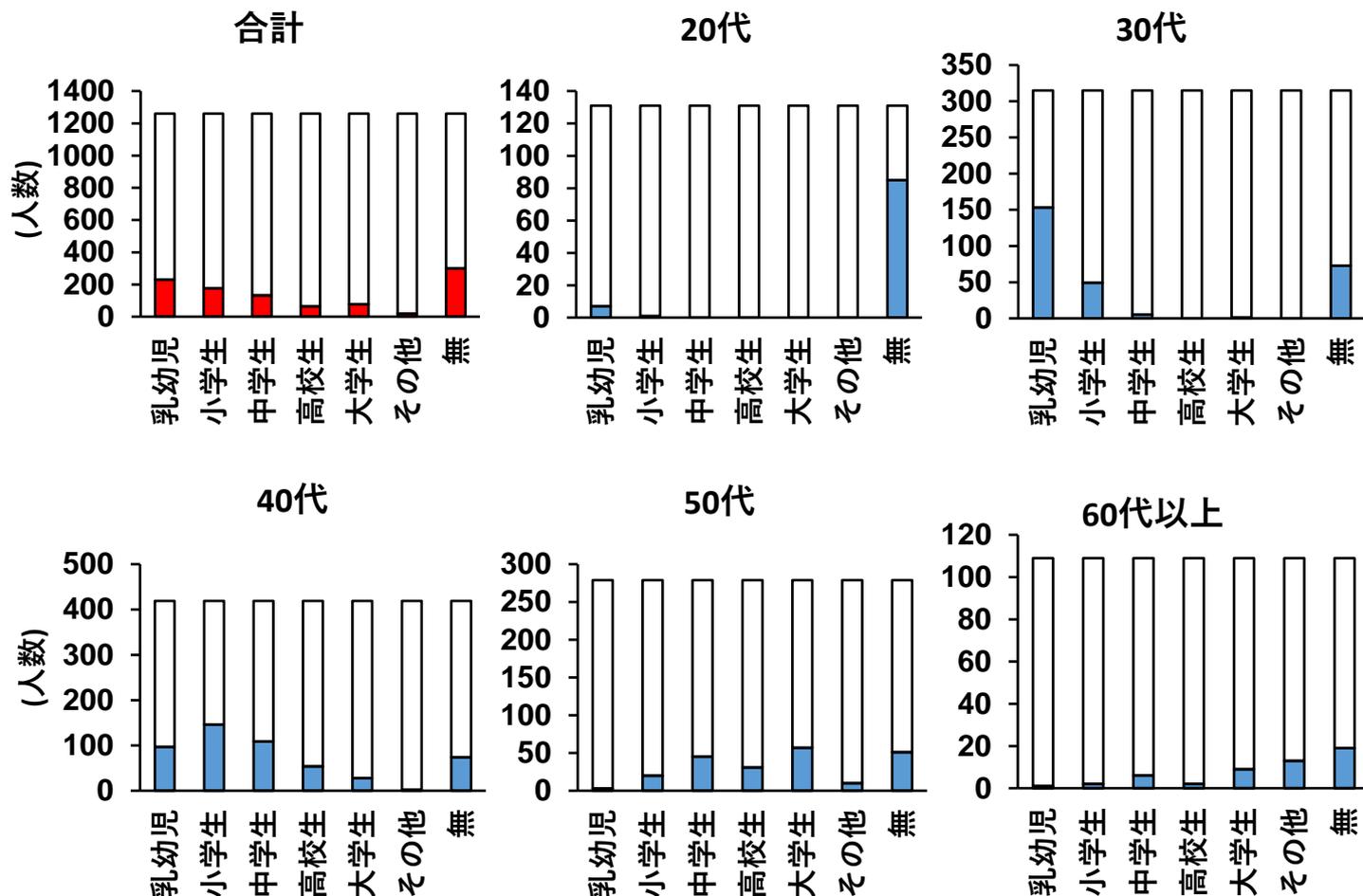
- 子育て
- 介護
- 夫の転勤
- 退職後
- 健康上/体力的理由
- 勤務先の指定
- 専修医
- 大学院と兼務
- 副業
- 産休の代替
- 積極的な選択

職種は医師が約5割、次いで看護師が約2割、管理栄養士が約1割を占めた
勤務形態は約9割が常勤、次いで約1割が非常勤であった

6. 配偶者の有無



7. 子供の有無

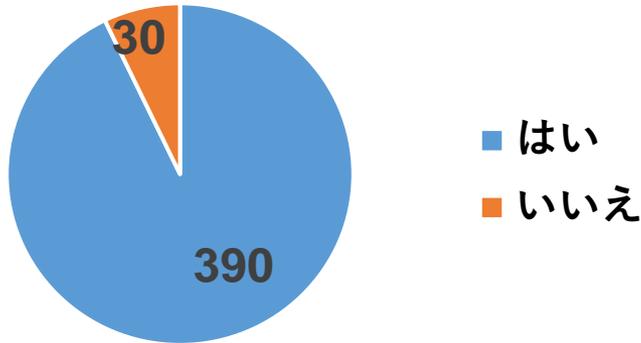


約7割が配偶者を有し、若い子育て中の方は30～40代に多かった

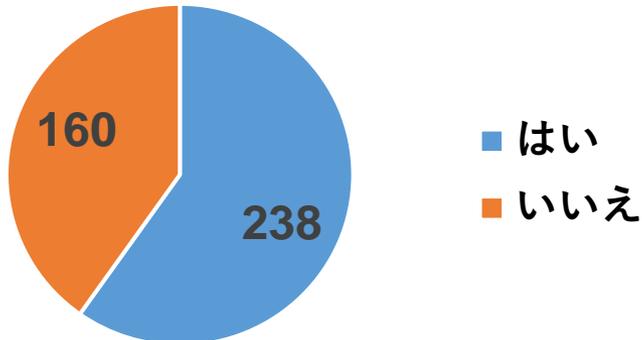
8. A、Bの一方もしくは両方に回答

A. 子育て中もしくは子育て経験のある女性医師自身であれば、望むことはありますか。

専門医を取得したい(した)

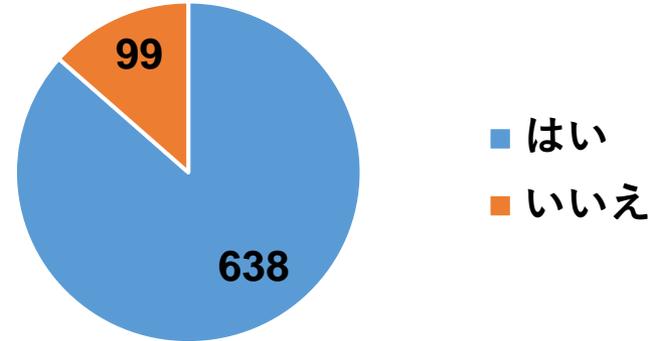


博士号を取得したい(した)

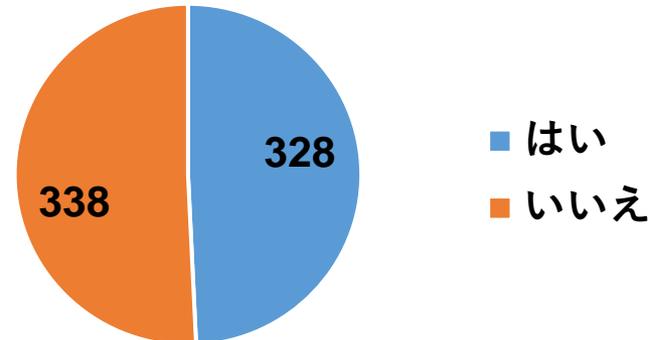


B. 若い子育て中の女性医師に対して望むことはありますか。

専門医を取得した方がよい



博士号を取得した方がよい



A: 子育て中の女性医師の9割以上が専門医取得を、約6割が博士号取得を望んでいた

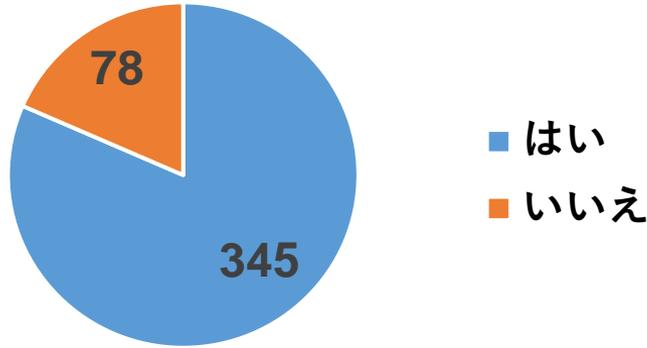
B: 約9割が専門医取得を、約5割が博士号取得を子育て中の女性医師に望んでいた

A、Bの一方もしくは両方に回答

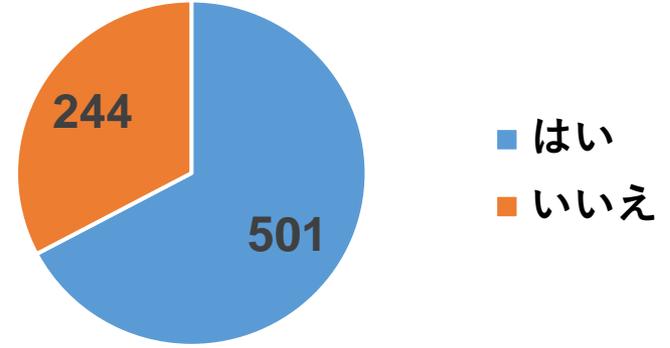
A. 子育て中もしくは子育て経験のある女性医師自身であれば、望むことはありますか。

B. 若い子育て中の女性医師に対して望むことはありますか。

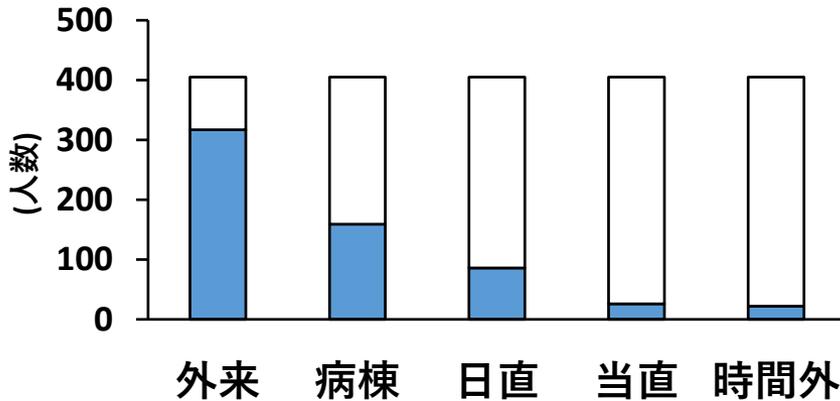
c. 常勤で働きたい



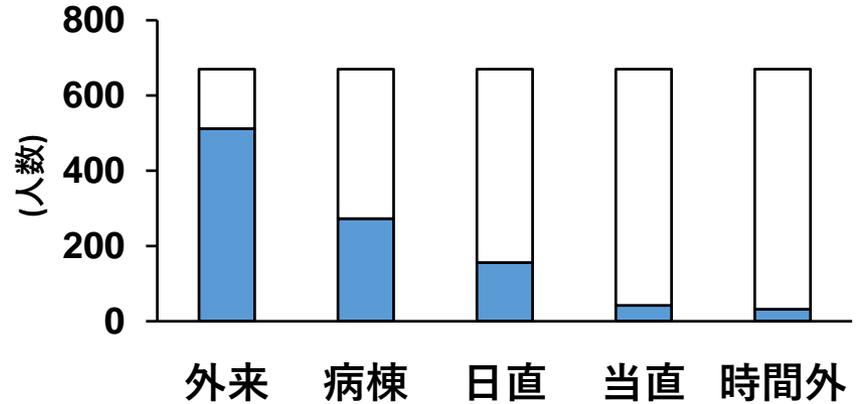
c. 常勤で働いてほしい



d. 勤務形態



d. 勤務形態



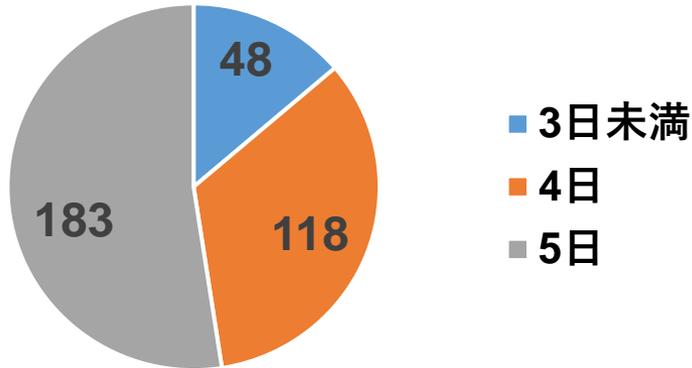
A：子育て中の女性医師の約8割が常勤勤務を希望。
 B：約7割が子育て中の女性医師に常勤勤務を望んでいた。
 A、Bともに外来、病棟、日直の順で希望が多かった。

A、Bの一方もしくは両方に回答

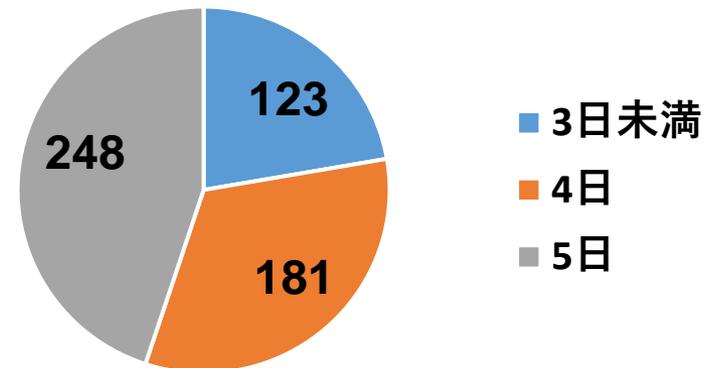
A. 子育て中もしくは子育て経験のある女性医師自身であれば、望むことはありますか。

B. 若い子育て中の女性医師に対して望むことはありますか。

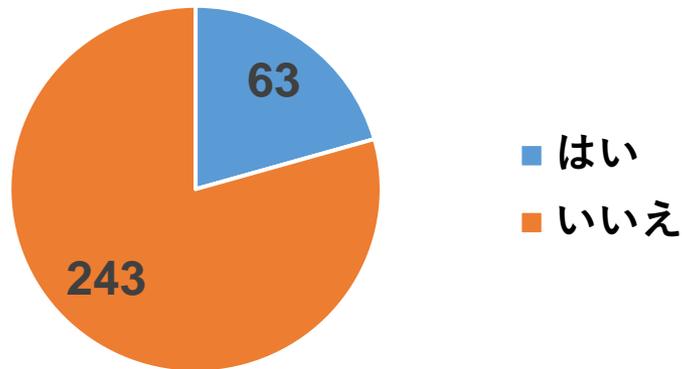
e. 勤務頻度/週



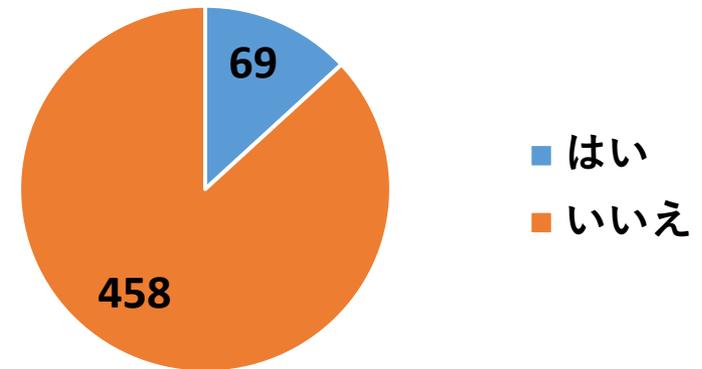
e. 勤務頻度/週



f. 休職したい



f. 休職してほしい



A：子育て中の女性医師の約5割が週5日、約3割が週4日、約14%が週3日未満の勤務を望んだ。休職希望は約2割であった。

B：約4割が週5日、約3割が週4日、約2割が週3日未満の勤務を望んだ。休職を望む声は約13%であった。

A、Bの一方もしくは両方に回答

- A. 子育て中もしくは子育て経験のある女性医師自身であれば、望むことはありますか。
- B. 若い子育て中の女性医師に対して望むことはありますか。

g. その他 (自由記載)

- 常勤非常勤に関わらず、家事子育てと仕事を両立できるシステム作り
- 専門医、博士号、勤務形態について選択できる環境
- その時のライフイベントに合わせて勤務形態を選択できること
- 育休や産休は必要
- フレックスタイムの勤務
- 夜8時までには帰宅したい

- 雇用側も非雇用側も希望をはっきり伝えるべき
- 週6日勤務

- 分からない/複雑な気持ち

g. その他 (自由記載)

- 子育てを大切にしてほしい
- 本人の希望を尊重
- 個々で状況は異なる
- 状況に応じて/できる範囲で/無理なく
- どのような形でもいいので継続してほしい

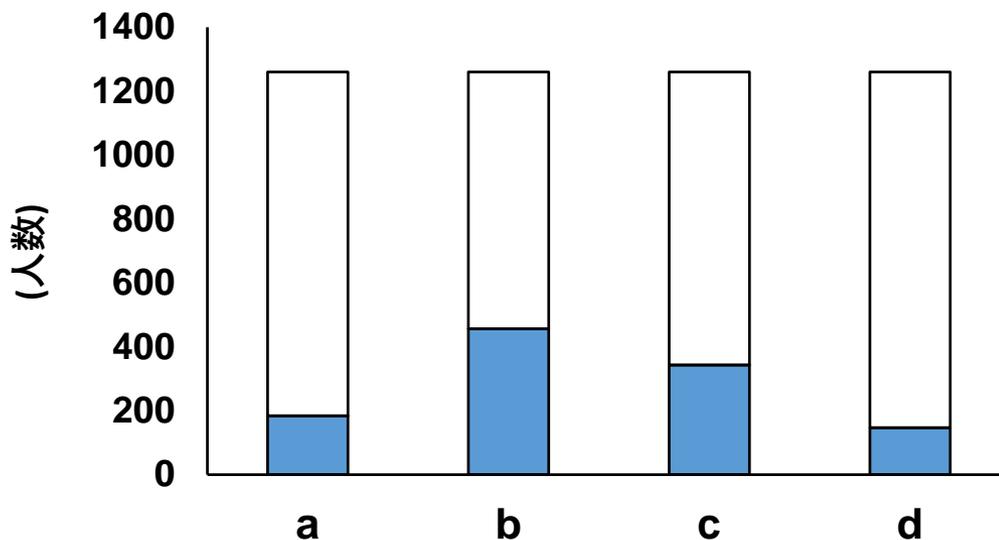
- 育休や産休は必要
- 時短でもよい/外来のみで定時で帰宅
- 保育所の設置

- 可能なことは責任を持ち全力を尽くす
- 早く帰ることを権利のように言わないでほしい/周囲がサポートしていることを忘れないでほしい
- 男性と同じように働いてほしいが、条件を整える必要がある

- 分からない/特になし

9. 皆様にお尋ねします。子育て中の女性医師の雇用に関してどのように考えますか。
(複数回答可)

- a. **非常勤**として働くのが良い
- b. **常勤** (業務負担の軽減はできないため、保育・託児などの制度を雇用側が十分整える)
- c. **常勤** (他の常勤者より業務負担が軽減される分、基本給に差がでてでも仕方がない)
- d. **常勤** (他の常勤者より業務負担が軽減されるが、基本給には差をつけなくてよい)



子育て中の女性医師の雇用について、非常勤がよいとする意見は約15%、常勤がよいとする意見は約75%であった

常勤の雇用方法としては、約4割がb、約3割がc、約1割がdをよいとする考えであった

9. 皆様にお尋ねします。子育て中の女性医師の雇用に関してどのように考えますか。
(複数回答可)

e. その他

- 時短の場合のみ基本給に差をつける
- 基本給ではなく、時間外業務、日当直、オンコールなどの手当を充実させ不公平感をなくすのがよい
- 業務負担、能力にあった給与体系にするべき
- 常勤・非常勤ではっきりと業務分けができるとうよい

- 価値観、配偶者の理解、協力者の有無など個々に異なるので一概には言えない
- 本人の希望や状況に応じてフレキシブルに選択できる雇用体系
- 時間を配慮する
- どれでもよいが保育・託児・病児保育は必要
- 男性にも子育てへの参加を求められる環境が必要

- 時短・外来のみの場合肩身が狭い/責任感をもってできる限りのことをするので、周りとサポートし合う職場作りがしたい
- dのような例があるために職場の理解が得られない
- 医師の働き方が正当に評価されていない中、女性に関する議論のみしても不公平感が払拭できない

10. 子育て中の女性医師に関する課題を解決するために、委員会、学会に期待されることを教えてください。〔自由記載形式〕

	合計	北海道	東北	関甲信	近畿	中四国	九州
働きやすい環境整備を望む意見	52	1	8	20	11	7	5
育児への支援を求める意見	35	3	6	9	6	4	7
専門医の取得や更新要件の緩和を望む意見	19	1	3	7	3	4	1
制度改革を求める意見	15	1	0	8	3	2	1
本委員会が開催するシンポジウムのあり方について	10	0	1	2	5	0	2
女性医師の意識向上を求める意見	8	0	0	1	2	3	2
男性医師の理解を得る取り組みを求める意見	7	0	3	1	0	3	0
男女差別の是正を求める意見	6	1	1	2	1	0	1
就職の斡旋を希望する意見	5	0	0	0	4	0	1
復職時の支援を求める意見	4	0	0	2	0	1	1
休職、退職はしかたないとする意見	2	1	1	0	0	0	0
女性医師同士の交流を求める意見	2	1	0	0	0	0	1
男性医師（配偶者）の家事分担を求める意見	2	1	0	1	0	0	0
学会員の増員を求める意見	1	0	0	0	0	1	0
女性医師の増員を求める意見	1	0	1	0	0	0	0
地域医療の改善の改善を望む意見	1	0	1	0	0	0	0
委員会のメンバーについての意見	1	0	1	0	0	0	0
その他	23	1	2	7	6	4	3

11. 「女性糖尿病医をpromoteする委員会」主催ワークショップやシンポジウムで今後希望する内容 [自由記載形式]

- 男女共同参画先進国などの歴史など
- Webでの参加希望
- 子育てとの両立について
- 介護との両立について
- 女性医師を部下とする上司のための勉強会・リコメンデーション
- 今後のターゲットを研修医や医学生に広げた働きかけが重要
- 若手女性医師の時期が一番大変でありフォローが必要。その時期、女性医師の立場や問題点を議論する場があったほうが良い。
- 少ない働き方でも十分役立っているというようなモデルの提示。働きづらさ、居辛さを解消しないと、子育て中の女性医師は現場に増えないと思う。それをカバーしている女医のフォローもしてほしい。
- 子育てしやすい環境整備の話
- 学会が子育てを女性医師に限定し取り扱っていることへの意見
- 学会は5時までには終わらせるべき

結果のまとめ

- 子育て中の女性医師 (以下子育て医師) の**9割以上が専門医取得**を、**約6割が博士号取得**を望み、他の回答者が期待する割合と同等または上回っていた。
- 子育て医師の**8割が常勤**を望み、他の回答者が期待する割合と同等または上回っていた。
- いずれの回答においても、希望の勤務形態は**外来 > 病棟 > 日直 > 当直 > 時間外**の順であった。
- 子育て医師の希望する勤務頻度は**週5日 > 4日 > 3日未満**の順であり、週5日勤務を希望する割合は、他の回答者が期待する割合と同等または上回っていた。
- いずれの回答においても、1~2割の休職を望む声があった。
- 子育て医師の雇用方法については、**常勤 (業務負担軽減なし、育児支援制度整備) > 常勤 (業務負担軽減、基本給差あり) > 非常勤 > 常勤 (業務負担軽減、基本給差なし)**であった。
- 自由記載では、**働きやすい環境整備、育児への支援、専門医の取得や更新要件の緩和**を求める意見が最も多かった。

結 語

子育て世代の女性医師は、多くの割合で子育てとキャリア形成の両立を希望していた。当事者、他の立場の医師も働きやすい環境の整備を望んでいることが明らかとなった。